

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300321		
法人名	社会福祉法人 善友会		
事業所名	グループホームさざんか		
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦654-5		
自己評価作成日	令和2年4月13日	評価結果確定日	令和2年7月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である、医療法人七久会山崎医院が隣にあり、緊急時の迅速な対応や日常の健康管理が適切に提供できる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271300321-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271300321-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さざんかは母体の医院に隣接しているため、利用者様は必要に応じてリハビリテーションができたり、体調に変化があった際は連絡を取って指示を受けたり、又は通院する等医療との連携が構築されている。次に強みの1つとして、職員間の関係性が良く、風通しの良い働きやすい環境が整っている。日常的に利用者様の件で意見交換や情報共有、アイデア等を出し合い、常に支援内容の改善を頭の中で描きながら業務に向き合っている。このような雰囲気の中で生活している利用者様の中には、意欲的な生活を送れるようになった方もいて、最終的には法人理念や事業所方針に沿った支援へと繋がっている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年6月20日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が笑顔が多いので、法人及び事業所の理念を貫けていると思う。	法人の理念は事業所立ち上げの際の職員が作った文言で、利用者様のペースに合わせながら、生活支援をする方針であることを確認した。また、法人理念を落とし込んだ、さざんかの運営方針は、利用者様の生活に楽しみを見出していたきたいという趣旨で、これは利用者様だけではなく、職員も一緒に楽しもうという意図も含まれているとのことであった。職員は理念や方針を理解して支援を行っているが、特別に振り返りや、皆で共有する機会は今のところ設けていないということであった。	法人理念や事業所方針は職員に浸透しているため、次のステップとして、毎月理念に沿った目標を掲げる等、更に深化していくことが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行っていない	地域との繋がりについて、今年に入ってから冬期に流行る感染症や、新型コロナウイルスの影響で、ほとんど地域とのつきあいを行うことができていない状況であった。感染症が流行する前は、地域の文化協会より踊りの披露等、慰問に来るような機会があった。利用者様が地域住民と交流を持つ機会としては、母体の病院にてリハビリテーションを行う際に、自宅に住まわれていたご近所の方や、お知り合いの方と接触する機会があり、この場は地域と利用者様の交流の拠点となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、少しずつ生かしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告が主で、なかなか御意見が出てこない	記録を基に状況確認を行ったが、2ヶ月に1回定期的に開催されていることを確認した。運営状況の報告に加えて、認知症の種類や症状を分かりやすく説明するミニ講座を開催する等、会議のマンネリ化防止に努めている。それでも報告型の会議になっているとのこと。今後、会議の在り方について検討が必要とのことであった。	会議が若干マンネリ化しているとのことであったため、地域との連携をより一層深める意味でも、警察や消防に参加要請してみる等、参加者や会議の内容に変化をもたらすことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のケアサービスについて担当者に伝えている	行政機関との接点は、運営推進会議の場が最も定期的で確実な場である。運営の報告は会議の場を利用して、その他に行政との接点は、利用者様の介護保険更新の手続きの際とのことであった。この他に公益的な取り組みとして、さざんかでは「さわやか相談員」の制度を利用して、第三者の相談員と利用者様が会話する機会を設けている。利用者様が困ったことや相談等を聴き入れて、その内容をさざんかにフィードバックしてくれるとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組みを行っていて、今後も継続していきたい	身体拘束や虐待について正しい知識を得ることや、廃止に向けた取り組み等は身体拘束廃止委員会を中心に機能している。この委員会は3ヶ月に1回開催されており、全利用者様の支援の内容を振り返る機会にもなっている。目に見える拘束ばかりではなく、言葉使いにも注意を払っており、特に命令口調にならないようにしたり、語尾をできるだけ柔らかくするように指導を重ねている。最後に、拘束等に関する研修は、併設の施設等とも定期的実施しているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修に参加していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を掛けて説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時及び通信時に随時ご意見ご要望を出していただきたいと発信している	ご家族との接点は、基本的に面会の時が一番多いとのことであった。この機会をより一層利用するため、ご家族が面会に見えた際は積極的にご利用様の普段の状況報告や、相談事等がないか尋ねるとのことであった。また、意見の反映については、利用者様からの要望で風呂場の手すりを設置したり、おむつの使用量についてご家族から相談を受けて、サイズの変更等を検討したりした。このように要望等に関しては、可能な限り耳を傾けて、改善するように努めているとのことであった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見や提案を出してもらい、代表者に諮っている	職員からの主な意見集約の場は、月に1回開催している職員会議である。日常の業務中にも意見交換しているため、通常よりコミュニケーションはよく図れているとのことであった。実際に職員に尋ねてみても、意見交換はよくできていて、上司に挙げるような内容は、皆の意見を集約して行っている。特に個別面談等は行っていないようであるが、話を聞く限り風通しは良い様子であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場が明るくなるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時職場内で研鑽に努めている。今後は施設外研修も含めて力を入れていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の会合に職員を参加させ、交流を図っている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時・入所時に本人やご家族に困りごとやご要望や確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時・入所時に本人やご家族に困りごとやご要望や確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りごとやご要望に沿うように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できることは無理の無い範囲で一緒に行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の呼びかけを行い、関わりを密にさせていただけるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容等御本人が馴染みにしている所がある場合は、継続して利用していただいている	関係継続の支援については、利用者様が隣接する病院でリハビリテーションを行う際に、馴染みの方々と会う機会があり、この機会は貴重な交流の場ともなっている。その他、ご家族の協力を得ながら自宅に戻って過ごしたり、今まで通っていたお店等へ外出したりして、関係が途切れないように可能な範囲で支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様ひとりひとりの認知症の症状・性格等を考慮して、孤立したり対立したりしないように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、転居先に会いに行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事のメニューややりたい事を随時間き取りを行っている	職員は、日常生活の中で利用者様との会話を大切にしている。利用者様の話をよく聞くこと(好きな食べ物、趣味、思い等)、また、家族から情報を得ることで、利用者様の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員が把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の意見と現場の状況を踏まえている	利用者様の思いと、面会時や電話で把握した家族の意向や要望、利用者様の状態を把握するアセスメントを基に、管理者が介護計画の原案を作成している。職員会議(全職員参加)で原案を検討し、サービス内容等を全職員で話し合っている。支援経過をモニタリングして次の介護計画に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記のように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が不十分		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力、母体の山崎病院をかかりつけ医にしたいと考えており、医師との良好関係を維持しながら迅速適切な医療を受けられるようにしている	入居時に、協力医療機関について説明し、利用者様、ご家族の希望するかかりつけ医を決めている。月1回受診(職員対応)し、受診結果を家族に報告している。また、歯科、眼科等の受診は家族で対応している。変更内容は「業務日誌」に記載し、職員間で共有している。主治医とは24時間連絡が取れ、夜間は協力医療機関の看護師が対応する体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	山崎病院の看護師に常に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	山崎病院に常に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様・ご家族と話し合いを行っている	重度化した場合や終末期に向けた「さざんか」の方針を、入居時に説明し同意を得ている。利用者様の状態変化のたびに主治医の意見を基に、家族、管理者で話し合い、今後の方針を決めている。急変時は主治医、管理者、家族で話し合い、それが家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	隣の併設山崎病院と相互連携をとっている	消防署の立ち合いのもと、避難訓練を行い指導を受けている。また、「さざんか」の状況から「漏電対策」が必要と考えている。災害時は、隣接する協力医療機関との連携体制が整っているが、今後は、運営推進会議で災害対策の議題を設け、地域(消防分団等)との連携を深めていきたいとのことであった。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで社会に貢献されてきた大先輩という尊敬の念をもって接するようにしている	利用者様には、常に尊敬の念を持ち「言葉遣い」に注意を払っている。職員会議等で管理者が「言葉遣い」について話しをし、職員の気になる対応があれば、その都度管理者が注意している。支援が必要な場面では、さりげない言葉かけや対応に配慮している。個人情報等は事務所の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者様に決定していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶・食事・入浴の時間以外は、できるだけ利用者様の意志を尊重して生活していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、できるだけ利用者様に選んでいた だいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	メニュー作成時には、食べたい物の聞き取り を行っている	献立は、職員が利用者様の希望に沿って2週 間ごとに作成し、職員が調理している。利用 者様は、状況に応じて野菜の下ごしらえ(野 菜皮むきやゴボウの削ぎ切り等)、食器やお 盆拭き等を意欲的に手伝っている。利用者様 の状態を把握して、主治医の指示の基、食事 形態やスプーン、食器の検討をしている。ま た、花見ドライブで弁当を食べたり、おやつを 作ったりと食欲を高めたり、食事への関心を 引き起こす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事摂取量は、食事ごとに記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは可能な限り使用せず、リハビリパン ツやパットを使用し、トイレやポータブルトイレ を使用していただいている	排泄チェック表や利用者様の行動をよく観察 してトイレに誘導している。利用者様の排泄 状況や行動、サインについて、日常的に職員 間で話し合い、支援の統一を図っている。こ れにより、退院時はオムツ使用だった利用者 様が、リハビリパンツとパットで過ごせるよう になった事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材を選んだり、野菜ジュースを活用したりして便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	火曜と土曜に入浴日を設定しているが、要望があった場合はそれ以外の日にも入浴していただいたり、温タオル清拭を行ったりしている	脱衣室、浴室に暖房器を設置し、柚子湯や菖蒲湯等、快適に入浴できる環境を整えている。入浴時は、利用者様とゆっくりと話ができるよう配慮している。利用者様のその日の気分を大事にして午前、午後で入る順番を変えたりと入浴を楽しめるように工夫している。また、利用者様の希望で同性介助を行う等、利用者様の羞恥心や負担感軽減にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分・室温などに配慮をし、適切に休息していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員に目を通してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を分担したり、家事の後「ありがとうございました」とお茶を出したりして、張り合いや喜びを感じていただけるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の重度化に伴い、御希望に沿えないことが多くなってきている	天気の良い日は散歩をする、家族と買い物や美容室に出かける等、日常的に外出できるように支援している。車椅子の利用者様も、敷地内を散歩したり、花を見に行ったりと外気浴や気分転換をしている。また、週末に家族と外泊をしたりと、家族の協力を得ながら、一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルを避けるために、買い物に行った際も原則ホームで立て替えることにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに壁の飾りを変え、毎月塗り絵付きのカレンダーを皆様に作っていただき、季節感を出すように努めている	窓から適度な日差しが入り、明るく開放的なフロアである。フロアには和室もあり、ボランティアの踊りの披露や利用者様が横になって休むスペースもある。フロアには利用者様の写真や切り絵、手芸等を飾っている。車椅子の動線を考えてソファを置く等、安全面にも配慮している。空調は職員が管理し、手すりやドアノブ、車椅子、ベッド柵等は毎日消毒する等、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度な間隔を空けて長椅子を設置して、一人でも数人でもくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火を扱う物以外は、自由に持ってきていただき、居心地を良くしている	利用者様の作品(習字、手芸品)、人形、家族の写真、お位牌、テレビ等、使い慣れたものや好みのものを置き、利用者様が安心して生活できるように支援している。各居室に洗面台を設置し、ゆっくりと口腔ケアができるように環境を整えている。各居室には掃き出し窓が設置され避難経路を確保する等、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等のリスクが高くない限り、できるだけ見守りだけで好きなこと・やりたいことを自由にさせていただいている		